

Ⅲ 地域教材開発の手順（例）と実際

1 地域教材開発の手順（例）

着想

構成・推敲

実施・改善

(1) 素材の収集・選定

集めてみよう

(2) 情報の収集

探してみよう

情報の収集方法

- 資料・パンフレット（市役所・町役場・公民館）
- 一般書籍・郷土資料（図書館・博物館・民俗資料館）
- 地域の関係者（インタビュー）
- 情報通信ネットワーク（インターネット・映像メディア）など

(3) 読み物資料の作成

書いてみよう

作成手順

① 主題やねらいを決定する（学習指導要領解説・心のノートの確認）

② 対象となる学年の発達段階や特性を把握する

③ 登場人物や状況を設定する

④ 中心場面（山場）を決め、
大まかな起承転結を設定する

（4コマ場面絵の活用（p. 18））

⑤ 場面分けをもとに文章化する

- 具体的な児童生徒の心の動き（内容の受けとめ）の想定
- 児童生徒の多様な価値観を引き出し、考えを深める工夫
- 児童生徒にとって分かりやすい文章の作成

⑥ 不要な文章や文言を削除する

	起	承	転	結
場面のイメージ絵				
絵の説明	平成13年6月、上巻の井上先生が、田んぼのそばの森に、中学の先生に見てもらったソリアオガエルの卵を盗み、それを育てる。	次の年の6月、3歳の村を、中学の先生に見てもらったソリアオガエルの卵を盗み、それを育てる。	平成17年、前不意のため、森の奥に、中学の先生に見てもらったソリアオガエルの卵を盗み、それを育てる。	地域の人間による森の破壊で、ソリアオガエルの卵を盗み、それを育てる。

4コマ場面絵

学習指導過程の構想
補助資料（「心のノート」など）

の検討

構成チェック票（p. 17）を参考に検討

(4) 授業の実施

実践してみよう

(5) 体制・環境づくり

充実させよう

- ① 授業を踏まえた改善点の整理
- ② 道徳教育の全体計画及び道徳の時間の年間指導計画への位置づけ
- ③ 教材コーナーへの保存・ホームページ等による発信

(1) 素材の収集・選定



集めてみよう

素材の収集に当たっては、日常から報道や書籍、身近な出来事等に強い関心をもつとともに、柔軟な発想をもち、幅広く求める姿勢をもつことが大切である。(p. 10参照) また、収集した素材は、いつでも活用できるよう分類・整理しておく必要がある。なお、市町の教育委員会や道徳教育推進協議会等と連携・協力して収集することも考えられる。

素材の選定に当たっては、児童生徒が道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深めていくための手掛かりになるものや、人間としての在り方や生き方などについて多様に感じられるものを素材として選定することが必要である。(p. 9参照)

(2) 情報の収集



探してみよう

取り上げる素材を選定した後、より広く、深く、多面的にその素材についての情報を収集する必要がある。収集方法については、資料・パンフレット、一般書籍・郷土資料、地域の関係者、情報通信ネットワークなどが考えられる。その際、書籍の出版社等に問い合わせるなど、著作権・肖像権に留意する必要がある。(p. 13参照)

(3) 読み物資料の作成



書いてみよう

作成手順としては、次の①～⑥が考えられる。但し、常にこの順番で作成が進むわけではなく、必要に応じて、進んだり、戻ったりしながら作成していくこととなる。また、作成を進めると同時に、授業に資料として位置付けた際の児童生徒の受け止め、資料提示や発問の工夫等の学習指導過程の構想、補助資料の活用について併せて検討しておくことが大切である。

さらに、資料を検討していく際には、構成チェック票 (p. 17) にある項目を参照されたい。

① 主題やねらいを決定する

主題やねらいを決定する際には、小・中学校学習指導要領解説道徳編（以下解説）や「心のノート」を確認し、一定の道徳的価値の含まれるねらいを明確にすることが重要である。「心のノート」は、児童生徒が自ら道徳性を発展させる窓口となる道徳の内容、すなわち学習指導要領に示された道徳の内容を、対象となる学年の発達段階に応じてより具体化され、キーワードとして分かりやすく書き表されており参考となる。

② 対象となる学年の発達の段階や特性等を把握する

児童生徒の実態に即した話題を提示していくためには、児童生徒の発達の段階に応じて地域（郷土）のとりえはどう広がっているのかや、地域の「ひと・もの・こと」をどの程度認識しているのか、今、何に興味・関心があるのか、どんなことで悩み、苦しんでいるのかなどの実態を把握しておくことが必要である。

③ 登場人物や状況を設定する

登場人物については、例えば、中心人物あるいは主人公（学習する児童生徒の実態に近い人物）、補助的な人物（中心人物を肯定的にあるいは否定的にゆさぶる人物）、理想的な人物（児童生徒の半歩先、一歩先の見方・考え方をもっている人物）の設定が考えられる。また、いつ、どこで、誰が出てくるのかなどの状況の設定に無理がないよう留意する必要がある。その際には、素材の背景など幅広い事前の資料研究を踏まえておく必要があることは言うまでもない。

④ 中心場面（山場）を決め、大まかな起承転結を設定する（四コマ場面絵 (p. 18) の活用)

中心人物が葛藤したり、中心人物の道徳的価値が変容したりする中心場面（山場）を設定し、四コマ

場面絵を活用するなどして、大まかな起承転結を考えておくことが大切である。その際、話の展開に飛躍があったり、前後でつじつまが合わない箇所があったりすることがないようにしなければならない。なお、感動資料等、必ずしもすべての資料が起承転結で構成されるわけではないことに留意する必要がある。

⑤ 場面分けをもとに文章化する

○ 具体的な児童生徒の心の動き（内容の受け止め）の想定

児童生徒が資料を読んだときに、どのように考えるのか、どのような発言をするのかなどを具体的に思い描きながら、文章化していくことが必要である。

○ 児童生徒の多様な価値観を引き出し、考えを深める工夫

中心人物が立ち止まって考える場面を設定したり、登場人物の心の動きを直接、記述せず、それを考える手がかりとして内面的な心の動きを表現する副詞や副詞句などを効果的に活用して表したりするなどの工夫が大切である。

○ 児童生徒にとって分かりやすい文章の作成

発達の段階に対して文章の量が多すぎないか、一文の長さは適切か、主述にずれがないかなどに留意し、一読して資料場面が把握できるようにすることが必要である。

⑥ 不要な場面や文言を削除する

一読して、児童生徒から道徳的価値の含まれるねらいにかかわる心の動きが引き出せるかなどを視点に、状況把握に必要な場面や文言以外を削除するとともに、登場人物の心の動きについては必要最小限とし、できるだけ単純な展開とすることが大切である。なお、複数で検討したり、少し時間をおいて読み直したりするとよい。

(4) 授業の実施



実践してみよう

授業の実施に当たっては、道徳の時間の特質に基づく適切な指導を展開しなければならない。その際、資料の特質を生かし多様な指導方法を工夫したい。例えば、「心のノート」等、補助資料を組み合わせたり、地域人材を招いたり、情報機器を生かしたり、疑似体験活動を取り込んだりするなどの工夫がある。

(5) 体制・環境づくり



充実させよう

体制・環境づくりに当たっては、道徳教育推進教師を中心として、道徳教育用教材の整備・充実・活用や道徳教育の研修の充実に関することなどが図られるよう、協力体制や環境を整備する必要がある。

① 授業を踏まえた改善点の整理・検討

授業を実施した後は、児童生徒が、実際にどう受け止めていたのかなど、構成チェック票をもとに、授業の状況を踏まえて改善点を整理し、関係者を交えて再度検討していくことが求められる。

② 道徳教育の全体計画及び道徳の時間の年間指導計画への位置付け

より一層、資料を生かしていくために、各教科等における道徳教育や地域行事等との関連を踏まえた検討を行い、次年度の諸計画に位置付けていくことが大切である。

③ 教材コーナーへの保存・ホームページ等による発信

授業で活用した資料を含め開発した教材は、教材コーナーを設置し保存しておくことが重要である。また、市町内の各校で共有できるシステムを工夫するとよい。さらに、ホームページ等で広く情報発信し、地域の人々の積極的な理解と協力を得、地域教材の開発と活用を一層充実させていくことが大切である。なお、上記①～③は、4分野共通のものである。